市川市下水道中期ビジョン

計画期間　平成26年度～平成37年度

平成26年3月

市 川 市

INDEX

第1章 下水道中期ビジョン策定の背景 …… 1
1-1 下水道中期ビジョン策定の趣旨 …… 1
1-2 下水道中期ビジョンの位置付け …… 3

第2章 市川市下水道の概要 …… 4
2-1 下水道の歩み …… 4
2-2 下水道の基本的な役割 …… 5
2-3 下水道の計画 …… 6
①汚水に関する計画 …… 6
②雨水に関する計画 …… 8

第3章 市川市の下水道の現状と課題 …… 9
3-1 浸水対策 …… 9
3-2 地震対策 …… 14
3-3 老朽化対策 …… 16
3-4 未普及対策 …… 18
3-5 公共用水域の水質保全対策 …… 20
3-6 水循環再生 …… 22
3-7 下水道の経営 …… 24
3-8 現状と課題のまとめ …… 27

第4章 下水道中期ビジョンの体系 …… 28
4-1 体系の全体像 …… 28
4-2 下水道中期ビジョンの計画期間 …… 29
4-3 市川市の下水道の基本理念 …… 29
4-4 下水道中期ビジョンの目標 …… 29
4-5 下水道中期ビジョンの基本方針および施策 …… 30

第5章 各施策の内容と数値目標 …… 31
5-1 施策の検討における視点 …… 31
5-2 基本方針1（安心な暮らしを支える下水道）関連施策と数値目標 …… 32
①浸水対策 …… 32
②地震対策 …… 33
③老朽化対策 …… 34
5-3 基本方針2（快適な暮らしにつながる下水道）関連施策と数値目標 …… 35
①下水道の未普及対策 …… 35
②総合的な公共用水域保全対策 …… 36
③水循環再生 …… 36
5-4 基本方針3（未来に活きる下水道）関連施策と数値目標 …… 37
①経営基盤の構築 …… 37
②管理の最適化 …… 38
③効果的な下水道中期ビジョンの推進 …… 39
第6章 下水道中期ビジョンのロードマップ …… 40
補足 Ⅰ 用語集 …… 42
Ⅱ 各施策の検討における視点 …… 45

第１章　下水道中期ビジョン策定の背景

1-1　下水道中期ビジョン策定の趣旨

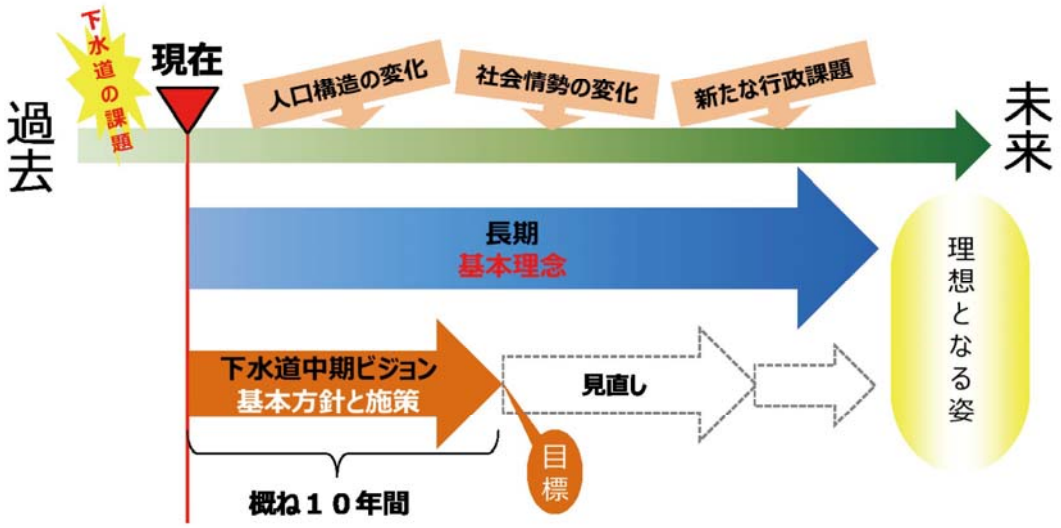
市川市の下水道は、昭和36年から一部地域の整備に着手して以来、現在まで鋭意事業を進捗しています。そのため、着手当時から約55年が経過した下水道施設を有することとなり、今後は下水道施設の老朽化がさらに進行することとなります。その一方、本市の下水道による汚水の排水と処理のサービスを利用できる市民の割合（下水道普及率）は約70%にすぎません。従いまして、本市の下水道は、老朽化した施設の対策と普及促進のための対策を並行して進める時代に入ったと言えます。

また、近年では局地的な大雨が多発する恐れがあるため、雨に強いまちづくりをさらに推進していくほか、東日本大震災の教訓から、被災時における下水道機能の確保や再度災害防止のための取り組みを強化する必要も生じています。

さらに、下水道は、市民や事業者等から徴収する料金により経営が支えられる事業ですが、本市では平成21年から始まった人口減少期のなかで、多種多様な取り組みを進める必要があることから、自立的な経営を持続するための方向性を見出さなければならない時期にあります。

このように、本市の下水道の現状や課題と将来の社会情勢が複雑な関係にあるなか、今後の本市の下水道事業が持続的に発展・向上していくため、以下の視点にたった下水道中期ビジョンを策定するに至りました。

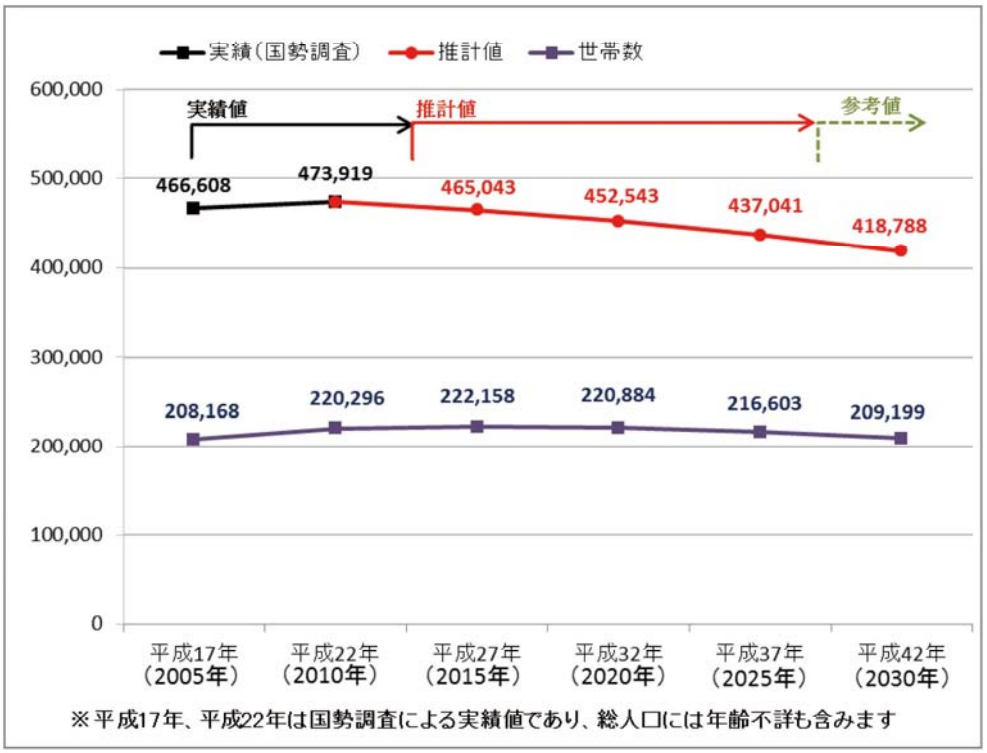
- □ 本市下水道を長期的な視点から将来都市像に向けた方向性（基本理念）を定め、その実現に向けた概ね10年間のテーマ（目標）を掲げ、目標を達成するための基本方針および施策を設定する。
- □ その際、単に現状の延長線として検討するだけではなく、将来的に起こり得る外部環境など、情勢変化も考慮する。
- □ さらに、持続可能な下水道経営を進めるため、単に下水道が抱える課題だけではなく、市政運営を取り巻く行政課題を考慮したビジョンとする。



[市川市の将来人口に関して]

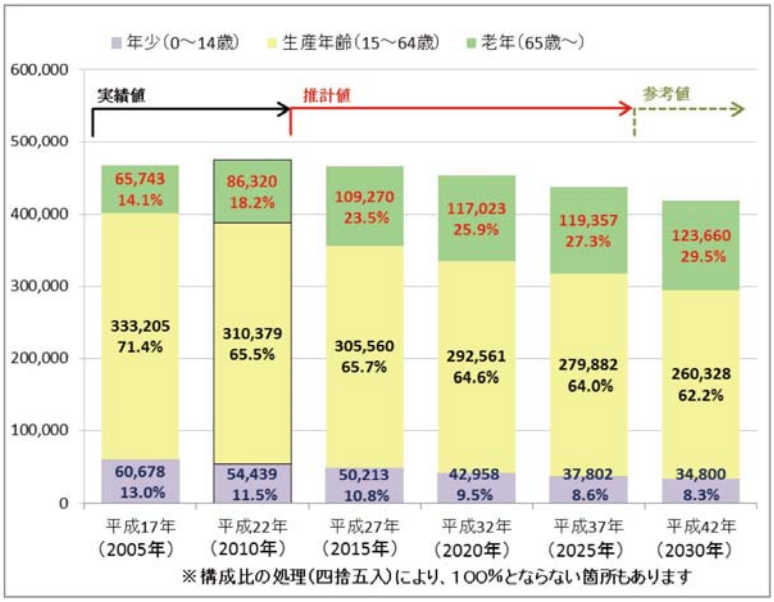
本市では、5年に1度行われる国勢調査を基に将来の本市人口の推計を行っており、平成24年度に実施した新たな将来人口推計では、平成22年をピークに人口減少に転じている結果となっています。従いまして、本市は、既に人口減少社会に突入しています。

また、平成22年の人口を基準としますと、平成32年で約2.1万人減、平成37年で約3.7万人減が予測されています。



年齢別構成でみますと、平成22年に比べた平成37年の人口は、14歳以下の年少人口では約1.7万人減、15歳から64歳までの生産年齢人口では約3.0万人減、65歳以上の老年人口では約3.3万人増となります。

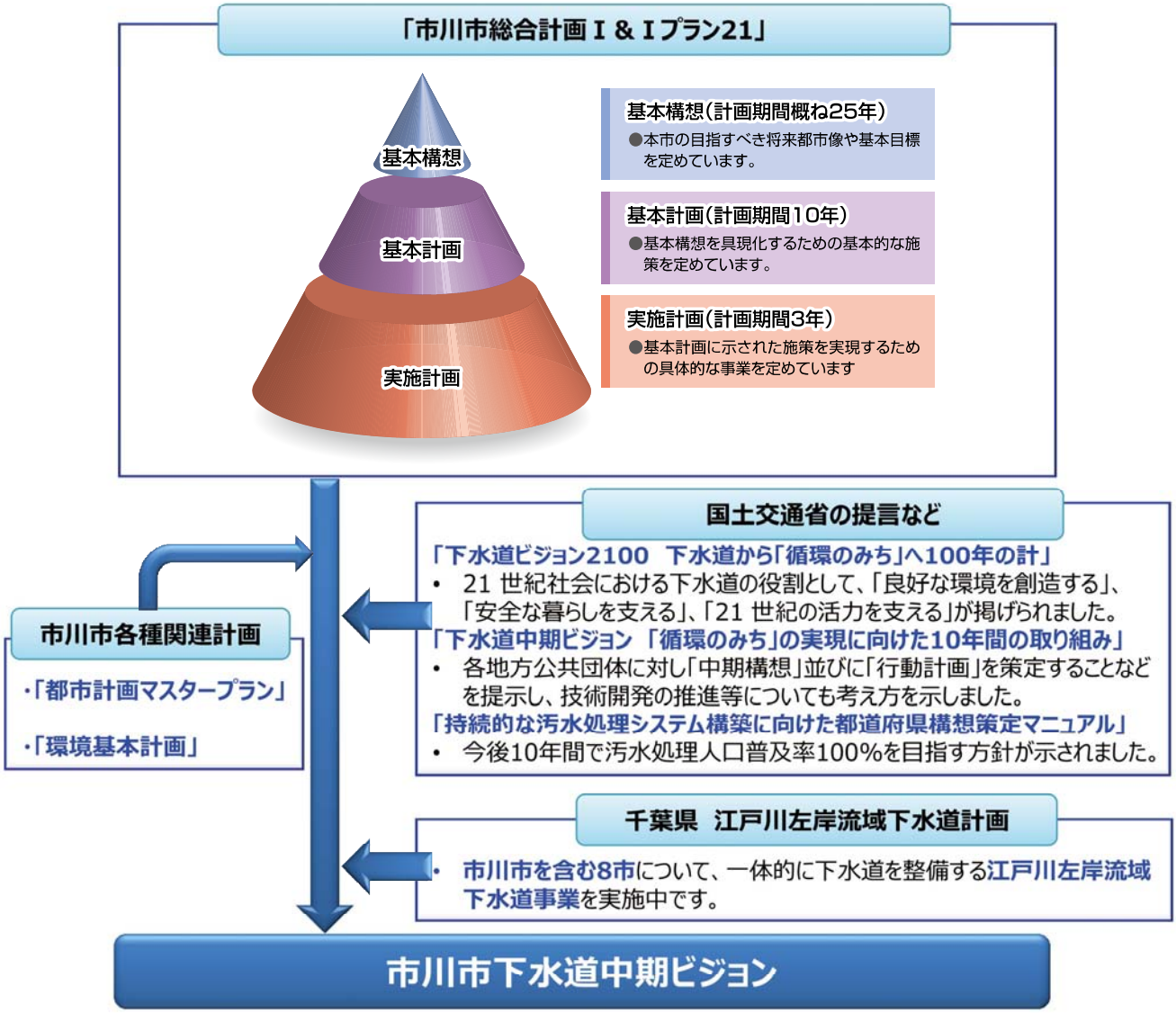
また、総人口だけ見ますと、平成37年と平成2年は同程度ありますが、65歳以上の高齢者は約3.2万人が約11.9万人へと約3.7倍に増加し、年齢構成が急激に変化することが予測されています。



1-2 下水道中期ビジョンの位置付け

市川市では、市政運営を総合的・計画的に進めるための最上位計画となる「市川市総合計画Ⅰ＆Ⅰプラン21」を策定しています。このプランは、概ね21世紀の第１四半世紀（2025年（平成37年））の本市の理想の姿である将来都市像とそれを実現するための施策の基本的な方向を定める「基本構想」を頂点として、その実現に向けた「基本計画」「実施計画」の３層構造となっています。また、「基本計画」では、「安全で快適な魅力あるまち」の施策のひとつとして「下水道分野のねらい」が示されています。加えて、本市下水道中期ビジョンに関連する計画として、「都市計画マスタープラン」や「環境基本計画」なども策定されています。

一方、全国の下水道事業を所管する国土交通省では、平成17年9月に「下水道ビジョン2100　下水道から『循環のみち』へ100年の計」を、平成19年6月には「下水道中期ビジョン　『循環のみち』の実現に向けた10年間の取り組み」を発表しており、各地方公共団体に対し中期構想および行動計画の策定の必要性が提言されてます。

さらに、全県域汚水処理構想策定のほか、江戸川左岸流域下水道事業、市内河川の管理および改修事業、浄化槽管理の監督等を実施している千葉県との連携が必要です。

本市のまちづくりの中で、水を衛る社会基盤である下水道を対象とした本市下水道中期ビジョンは、上記に述べた各種取り組みなどを勘案して策定するものです。